

12月4日～10日は人権週間です

広げよう愛の輪 人の輪はりまの輪



平成26年度入選標語
馬場 秀樹さん（川崎重工工業株式会社）

12月4日～10日は人権週間です。
人権デーと人権週間

人権デーは、世界人権宣言（1948年）の採択を記念して、1950年の国連総会で採択日の12月10日を「人権デー」と決めました。一方、国内では、世界人権宣言採択の翌年（1949年）に、採択日の12月10日を最終日とした1週間を「人権週間」と定め、様々な人権啓発活動を行っています。

人権詩

「当たり前言葉」

蓮池小学校 4年 吉澤 隼

「おはよう」と言える家族がいる。
「こんにちは」と言ってくれる人がいる。
「おやすみなさい」と言っている家族がいる。
「ありがとう」と言いたい人がいる。
「ごめんね」とあやまれる友達がいる。
「ただいま」と帰れる家がある。
「いただきます」と食べられる物がある。
「だいじょうぶ」と声をかけてくれる仲間がいる。
「がんばろう」とはげまし合える仲間がいる。
「おやすみなさい」と言っている家族に
ねむれる家族がいる。
当たり前言葉ばかりだけれど、どれも
「幸せ」だからこそ出る言葉だとほくほく
思う。

「笑顔と心の窓」

播磨中学校 1年 藤原 舞香

「にっこり、笑顔」をそえるだけで
言葉はとても柔らかくなる
「にっこり、笑顔」でおじぎするだけで
感じの良い挨拶の代わりになる
「にっこり、笑顔」でみつめるだけで
「友達になろう」とって気持ちが
伝わってくる
小さい頃は「笑顔」が評判だったあの子
最近「笑顔」が少なくなった
なぜだろう
心が醒めてしまったのかな
色んな事を考えて
素直に自分を出せなくなったのかな
もっと心の窓を開いて
ありのままの自分でいられたら
あの「笑顔」は戻ってくるのかな
いつでも話せるように
いつでも私は準備してるよ
だから私は「笑顔」でいるよ
私も「笑顔」が苦手になってるけれど



▼問合せ 生涯学習グループ
☎079 (435) 0565

平成27年度版人権啓発カレンダー「ふれあい」が完成しました

播磨町では、人権週間にあわせ、講演会や人権啓発資料、人権啓発カレンダーなどを住民の皆さんにお届けしています。
様々な取り組みと、幼稚園、小・中学校の園児、児童、生徒の人権作品を紹介します。

このカレンダーには、皆さまから応募いただいた人権標語やふれあい川柳を掲載し、人権意識の向上を図り、お互いの人権を守り住民みんなで住みよい町にしようと呼びかけてきました。また、日常で役立てられるようにと、ゴミの収集日や防災情報を掲載した便利なカレンダーに仕上がりました。目につくところにかけていただき、メモとして利用すると共に掲載したふれあい写真をみてほっこりしたあたたかさを感じていただければ幸いです。

アンネ・フランク展「希望の未来」を開催します
わたしは世界と人類のためにたります。

～「アンネの日記」から～



▼開催期間 12月4日(休)～10日(休) 午前8時30分～午後9時
(4日は正午～午後9時)
▼開催場所 中央公民館 ロビー



▼展示内容 パネル

- ・アンネ・フランクの生涯
 - ・アンネ・フランク形見のバラ
 - ・なぜ起きた？ホロコーストなど
 - ・20点（ホロコースト記念館所蔵遺品類）
 - ・アウシュビッツ収容所ガス室レンガなど5点
- （展示内容・展示数は変更となる場合があります）

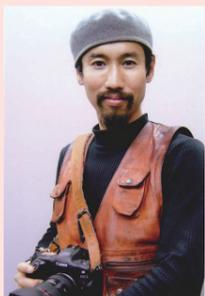


●人権啓発カレンダー
「ふれあい」原画展
を開催します

▼日時 12月4日(休)～10日(休)
午前8時30分～午後9時
▼場所 中央公民館 ロビー

「こころふれあう 町民のつどい」講演会
戦場の現場から祈りを捧ぐ
～命の大切さ 互いを愛し、敬いあうこと～

▶講師 渡部 陽一
（戦場カメラマン
ジャーナリスト）
▶日時 12月7日（日）
13：30～15：30
（開場13：00）



▶場所 中央公民館
大ホール

※駐車場に限りがありますので、徒歩か自転車
でお越しください。

▶費用 無料（満席の場合は入場制限があります）

▶プログラム

13：00～	開場・受付
13：30～14：00	開会行事（小中学生人権作文・ 人権詩優秀作品表彰式・朗読）
14：00～15：30	講演会
15：30	閉会

プロフィール

学生時代から世界の紛争地域の取材を続け、
戦場・変革現場での取材・発信を続ける戦場カ
メラマン。各地の取材を通じて痛感した命の大
切さ、深淵な人間愛、平和希求のメッセージを
写真と文章で世界に発信することを天命とし、
講演活動も精力的に実践中。

▶問合せ 生涯学習グループ
☎079 (435) 0565

『平等な社会にするために』

播磨南中学校 3年 青山 連也

日本は、社会的弱者に対して暮らしやすく優しい国でしょうか。

最近、みんなの意識が高まって「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」というような生活環境が整ってきたため、以前と比べると随分生活がしやすくなってきていると思います。

しかし障害を持った人は、僕たちが気づかないところで不便を感じているのかもしれない。

一ヶ月ほど前に、家族とスーパーマーケットに行ったときのことです。車イスに乗ったおじいさんが一人で買い物をしていて、ひざの上はたくさん商品に乗せながら、ゆっくりと店の中を回っていました。

するとひざの上の山積みになっている商品の中から一本の缶ジュースが落ちてしまいました。缶ジュースは、ちょうど車イスの下に入り込んで、自力で拾うことは難しそうでした。

周囲で見ていた人たちは、気にはしていない様子でしたが、誰も声をかける人はいませんでした。僕も気にな

っていましたが、少し離れたところにいたため拾いに行く勇気がありませんでした。

そのとき、隣にいた母が「手伝いましょうか」と言って缶ジュースを拾い、ひざにのせた商品を買った物カゴに移してレジまで運びました。おじいさんは「助かったわ。遠慮していつも声かけられなくて困るんや。ありがとう。」と笑顔でお礼を言っていました。

少し離れたところから見ている僕は、自分の勇気の無さを情けなく思いました。おじいさんが缶ジュースを落として困っているのを見ていたのに、とっさに手を貸すことができなかつたのは「障害者」という特別な目で見ていたからなのかもしれない。自分自身の中で、何か距離をつくっていたことに気がついて、反省しなければいけないと思いました。

それと同時に、母がとった行動を尊敬しました。以前は、障害を正常なものではなく劣っているものとしてとらえていた

風潮があったと聞いて、僕は驚きました。

障害について理解することができれば、差別は生まれなれないと思います。そのためにはどのような考えを持つことが大事なのでしょう。

一人ひとりが大切な人間として認められ、意見や考えなどが尊重されれば、社会の中で平等な権利を得ることができるようになると思います。そして、それぞれの能力を伸ばし、個性として認めれば、自立した社会生活が送れると思います。

僕が小学五年生のとき、通学路の歩道に視覚障害者のための点字ブロックが敷設されました。障がいのある人にとっては、とても助かるものです。しかし「雨が降ったら滑りやすくて困るわ。あんなに別にいらんのになあ。」と、近所の人々が不満を言っているのを聞いたことがあり、複雑な気持ちになったのを覚えています。

確かに僕もぬれた点字ブロックの上を自転車で走ったとき、滑ってこけそうになった経験があります。また、お年寄りや車イスの方がつまずきやすいなどという問題点が上がったりもしています。

しかしこの点字ブロックは、今も常によいものへと改善されていると聞いたので、安心しました。

他にも、障害者だけではなく、社会的弱者に対してのさまざまな偏見

や差別なども問題になっています。今、完全失業者が増え続けているそうです。福祉の充実はもちろんですがみんなが理解する心を持つことで社会が変化してくるのではないかと思います。

人種や性別、国籍や宗教の違い、身体や心の能力の違いなどによって、人間の価値が決まるものではありません。誰もが平等で平和に暮らすためには、お互いを理解して思いやりを持つ



つことが大切だと思います。

『今日から私もサポーター』

播磨小学校 5年 中岡 亜実

私は、夏休みことも認知症サポーター養成講座に参加しました。学校から配られたプリントに「小学生対象」や「身近なお年寄りがかかっていたりするのの病気」や「サッカーのサポーターのようにお年寄りや家族を応援しよう」というのを見て参加してみようと思いました。お母さんにプリントを見せると、「お母さんも持つてるよ」とオレンジのリングを見せてくれました。「前に見ていたテレビの病気の話の事だよ。小学生にもわかりやすく教えてくれるって書いてあるし、いい機会だからいいと思うよ。」と申し込みしてくれました。

私は、ガールスカウト活動をして

いるので、デイサービスやあえの里に行ったり、一人べらしの高齢い者の方とハガキを送ったり、もらったりにしています。「元気で学校に行っていますか。」とか「宿題がんばっ

てね」といつもはげましてもらっています。播磨町は自転車でもどこも行ける町なので、道でこまった高齢い者の方を見たら話しかけられるようになりたいです。

播磨町では高齢い者の方が約八千人いるという事でした。認知症は頭(のう)の病気で年をとる事で増えるといわれています。たとえば、「もの忘れ」が、食事の食べたものを思い出せないことに対して、認知症は食事したそのことを思い出せなくてわすれてしまつていふ事です。

認知症の人と会つたら「三つのない」をしてくださいと言われました。一つ目は「おどろかせない」、二つ目は「急がせない」、三つ目は「ばかにしてきずつけない」という事です。声をかける時も、「一人でかける」、「後ろから声をかけない」、「やさしくはつきりと話す」など、認知症の人が不安になつたりこわが

らせないように安心して話せるようにする事を教えてもらいました。

サポーター講座に参加して、私もできる事を教えてもらったので勇気を出して「何かこまっていますか。」と声をかけられるようにしたいです。いつも学校に登校する時や、放課後遊んで帰っている時に高いい者の方が「おはよう」「気をつけて帰ってね」と声をかけてくれます。私は地いきのいろんな人に見守ってもらっていると感じています。

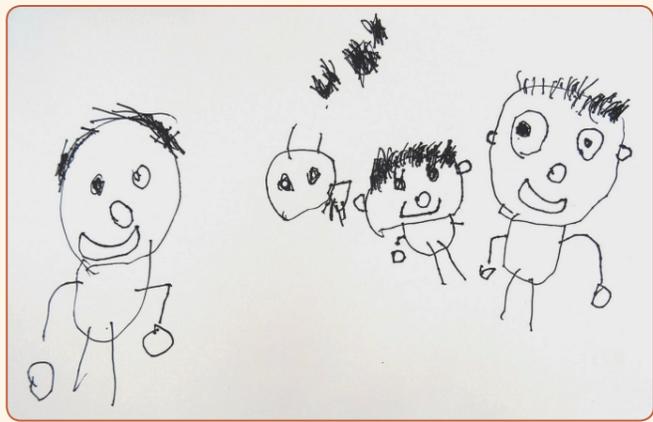
見守ってくれる人を「サポーター」と言います。私は、今回「認知症サポーターのオレンジリング」をもらいました。このリングをつけていると認知症の事を勉強したしるしになるので、認知症の人だけでなく家族の人も安心して聞かれます。見守る所につけておこうと思います。播磨町でこどものサポーターがもっと増えて、みんなが笑顔で住める町になれたらいいなあと思います。



『みんなでこころをひとつに』
播磨西幼稚園 あみの そうき (5歳児)



『おともだちとほっぺとほっぺをくっつけているよ』
播磨幼稚園 しまだ あおい (3歳児)



『ともだちとむしをさがしたよ』
蓮池幼稚園 まつした そうご (4歳児)

特設人権相談を開設

いじめ、いやがらせなどでお悩みの方は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は守られます。(予約不要)

▼日時 12月4日(休)

午後1時～3時

▼場所 福祉しあわせセンター

▼問合せ 福祉グループ

079 (435) 2362